

水環境・河川・流域(1) (1-A-10-4～1-A-12-1)

計6件の発表のうち、河川水質の指標化に関する研究が4件、河川の流出負荷量推定に関する研究が2件であった。

前者では、ダム下流の減水区間における水質変化と水生生物の調査(1-A-10-4)、基準項目の見直しに関連して TOC 測定法の比較(1-A-11-1)、蛍光特性と DOC の相関解析(1-A-11-2)、3D GIS システムを用いた河川水質の可視化システム(1-A-11-3)についての発表があり、それぞれ、生物の空間不均質性や流況変化の数値化、各測定法の特性と差に関する技術的な原因、河川流量や季節の影響、構築システムの概要について討議がなされた。

また後者では、森林河川からの DOC 流出(1-A-11-4)、水田の代掻きに注目した汚濁負荷(1-A-12-1)についての発表があり、土壌中の過程の精緻化、懸濁粒子径の違いや従来の原単位法との比較などについて討議がなされた。各研究の視点は基礎から応用まで幅広くどれも興味深かったが、今後は研究者側には実際の適用事例をより意識した成果のまとめが、参加者にはこれを促す視点からの質疑・助言があれば、当該分野の方向付けにさらに貢献できるであろう。

(山梨大学国際流域環境研究センター 西田 継)